

公園をみる・観る

= 白い花の咲く頃 =

「白い花の咲くころ」と聞くと懐かしい昭和のメロディを思い出される方は私とほぼ同世代の方であろう。昭和25年5月に発表されたラジオ歌謡で、若いころ故郷に恋人を残して人生を歩き続けてきた男性が、彼女との別れの場面をしのぶ歌だ。歌われている白い花がなんの花かは私も知らないが、いま同じ5月、公園にも白い花が咲き乱れている。爽やかな青空のもとトベラやネズミモチ・シャリンバイの花が青空を背景に美しさを競っている。中でもシャリンバイは今を盛りと咲き誇り園路散策の道しるべとなっている。



シャリンバイはバラ科の植物で枝葉が車輪状に付き花が梅に似ていることから名付けられている。山口湾を望む東側園路沿いでは、視界が青い空と白いシャリンバイの花で二分されており、コントラストの美しさに思わず見とれてしまった。山口湾を右手に、遠く周防大橋を目の端に、



ご機嫌な気分で初夏の日差しを感じながら園路を一周。ピジターセンターの玄関前に帰って来ると淡水池の水面が鏡のように凜ぎ、逆さ富士ならぬ、逆さ東屋を写してすっきりと美しい居住いをみせていた。

毎年5月の公園は実に美しい貌を見せる。この風景を多くの人に鑑賞して欲しいと思った。(土×土)

Kさんの、あんなとりこんなとり

ある時、ドシン！と大きな音がして家が揺れました。外を見回しても何の異変もなく窓下のフェンスにキジバトが一羽、向こうを向いて止まっているだけでしたが、ふと窓ガラスにうっすらと白模様がついているのに気が付きました。よく見ると、それはまさに羽を広げてこちらに向かって飛んでくる鳥の形をしています。

しばらくじっとしていたフェンスのハトはおもむろにこちらを振り向き、けげんそうに窓を眺めた後、気を取り直してどこかに飛んでいきました。窓に勢いよくぶつかって軽い脳しんとうを起こしていたのでしょうか。無事でよかった！

外から見てみると、窓にはきれいな青空が映っていて、ハトには空の続きに見えたようです。

それにしても、窓ガラスに付いた白いものは？調べてみるとそれはキジバトの体の表面に付いている防水、防汚のための粉状の羽で、何かにぶつかった時などに飛び散るのだそうです。窓についた白い模様がキジバトのぶつかった跡だったとはびっくりです。

